

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタカローラ愛知株式会社 蒲郡店	階数	地上2階
建設地	愛知県蒲郡市竹谷町松本13番2、13番4、15番1、22番2	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,700時間/年
建物用途	物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年8月 予定	評価の実施日	2024年7月31日
敷地面積	3,922 m ²	作成者	服部 信行
建築面積	2,259 m ²	確認日	2024年8月1日
延床面積	2,641 m ²	確認者	服部 信行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★☆☆☆☆ 80%: ★☆☆☆☆ 100%: ★☆☆☆☆ 100%超: ★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	87%
③上記+②以外の	87%
④上記+	87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR のスコア = 2.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>2.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

 実行に ます

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
トヨタカーローラ愛知株式会社 蒲郡店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	-	-	-	-	-	3.0
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	3.0	-	-	-	3.0
1.2.1 開口部遮音性能		0.4	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-
1.2.2 1 開口部遮音性能		-	3.0	0.73	-	3.0	-	-	-	-
1.2.2 2 界壁遮音性能		-	3.0	0.27	-	3.0	-	-	-	-
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-	-	-	-
1.3 吸音		-	3.0	0.20	-	3.0	-	-	-	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御		0.3	3.0	0.35	-	-	-	-	-	3.0
2.1.1 1 室温		0.5	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
2.1.1 2 外皮性能		3.0	3.0	0.42	-	3.0	-	-	-	-
2.1.1 3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.22	-	3.0	-	-	-	-
2.1.2 2 湿度制御		3.0	3.0	0.36	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.20	-	3.0	-	-	-	-
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30	-	3.0	-	-	-	-
3 光・視環境										
3.1 屋光利用		0.2	2.7	0.25	-	-	-	-	-	2.7
3.1.1 1 屋光率		0.3	2.1	0.37	-	-	-	-	-	-
3.1.1 2 方位別開口		3.0	1.0	0.40	-	3.0	-	-	-	-
3.1.1 3 屋光利用設備		3.0	3.0	0.60	-	3.0	-	-	-	-
3.2 グレア対策		0.2	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3.2.1 1 屋光制御		5.0	3.0	1.00	-	3.0	-	-	-	-
3.3 照度		3.0	3.0	0.10	-	3.0	-	-	-	-
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.33	-	3.0	-	-	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		0.2	4.2	0.25	-	-	-	-	-	4.2
4.1.1 1 化学汚染物質		0.5	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-
4.1.1 2 化学汚染物質		3.0	5.0	1.00	-	3.0	-	-	-	-
4.2 換気		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-	-
4.2.1 1 換気量		3.0	3.0	0.39	-	3.0	-	-	-	-
4.2.1 2 自然換気性能		3.0	3.0	0.22	-	3.0	-	-	-	-
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.39	-	3.0	-	-	-	-
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4.3.1 1 CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-
4.3.1 2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.4	0.40	-	-	-	-	-	3.4
1.1.1 1 広さ・収納性		0.4	2.5	0.40	-	-	-	-	-	-
1.1.1 2 高度情報通信設備対応		3.0	1.0	0.22	-	3.0	-	-	-	-
1.1.1 3 バリアフリー計画		3.0	3.0	0.22	-	3.0	-	-	-	-
1.1.2 3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	0.55	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	-
1.2.1 1 広さ感・景観 (天井高)		0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	-
1.2.1 2 リフレッシュスペース		3.0	5.0	0.33	-	3.0	-	-	-	-
1.2.1 3 内装計画		3.0	2.0	0.33	-	-	-	-	-	-
1.2.2 3 内装計画		3.0	5.0	0.33	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		0.3	4.0	0.30	-	-	-	-	-	-
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計		3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-
1.3.1 2 維持管理用機能の確保		3.0	4.0	0.50	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.0	0.31	-	-	-	-	-	3.0
2.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2.1.1 2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2.1.2 2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-	-	-	-
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	-	-
2.4.1 1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.4.1 2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.4.1 3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.4.1 4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.4.1 5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高3.9m以上	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率<0.1	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性		②		-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.37		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	2.6
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	2.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=1.07	3.0	1.0	0.23		-	-	1.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.85	3.0	2.7	0.43		-	-	2.7
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	2.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水型器具の採用	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.5	0.63		-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-	
1 消火剤				-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50		-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率87%	-	3.5	0.33		-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	2.0	0.33		-	-	2.0
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	1.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自	適切な駐車場の設置	-	4.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭				-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20		-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策			目的に応じた照度検討を行う	-	4.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

トヨタカローラ愛知株式会社 蒲郡店

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 トヨタカローラ愛知株式会社 蒲郡店

計画上の配慮事項	
総合	周辺環境に配慮した外観デザインとした。
Q1 室内環境	快適に業務が行える環境づくり、仕上材、空調、照度とした。
Q2 サービス性能	余裕ある空間づくりとした。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地帯や庇の設置により敷地内利用者の暑熱環境に配慮している。
LR1 エネルギー	ODPが0の冷媒を使用
LR2 資源・マテリアル	床材に耐久性の高いタイルを使用することで、床材の塗り替え等の環境負荷を低減
LR3 敷地外環境	適正な照度設定を行い、敷地周辺への光害対策に配慮している
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。